

公益社団法人日本ビリヤード協会平成30年度事業計画

1 組織

資格認定、指導員制度、審判員制度の明文化が必要となります。今年いくつかができましたので、一歩前進です。30年度は特に指導員・審判員をはじめJSCの指導による制度構築を進めてゆきます。現在ビリヤード協会は規程を整備するという大きな転機にあります。

2 普及事業

協会のアピールとしては適切な運動量と、頭を使うことによる認知症防止、コミュニケーション等があります。現在増えている高級高齢者施設では、入居者のニーズに応える姿勢をとっており、その中にビリヤードも入っているようでいくつかの問い合わせもありました。講師派遣依頼がくればできるだけ協力をお願いします。公共の高齢者施設には全撞工の協力でテーブル貸与・贈呈を続けてゆきます。

若年層への普及も重要です。児童館などからオファーが来れば極力受けるようにして下さい。いずれも、一度二度はボランティアでも、度重なるようでしたら本部にご相談ください。多少の補助はできますが、基本は支部としてもやらなければならない事業です。協会所有のミニテーブルは、引っ越し便で送ることができますので、各地のイベントで使うことは可能です。

学校対抗・学生選手権

競技会ではありますが、学生層への普及のため、学校対抗選手権も継続します。かなりの事業支出を伴いますが絶対に続けてゆかなければならない大会といえます

新設の日本学生選手権はフリーエントリーで開催しています。来年度以降は協会の最も力を入れる大会のひとつとしてゆきたいと思います。

3 選手強化

30年度は特別な大会はありませんので、例年の選手派遣がメインとなります。

4 ジュニア

ここ数年日本のジュニアクラスは層・レベルと共にかかなり充実していましたが、その充実したメンバーが徐々にジュニアを卒業し、世代交代を迎えています。このクラスは常に新メンバーが登場していないといけないのですが、全国的に選手層が薄くなっているのが現状です。タレント発掘も協会の重要な仕事であり、また、ジュニアの充実はそのまま普及にもつながります。またジュニア・学生層への普及は体協加盟や地区教育委員会とのつながりが有効な手段であり、組織の発展ともつながりをもってきます。

5 国体記念大会

国体は福井・茨城とデモスポ参加が途切れてしまいました。鹿児島からデモスポ再開です。

6 大会開催・・・トーナメントスケジュールによる。

7 大会派遣・・・例年通り世界選手権に代表を派遣。

8 各種委員会

アンチ・ドーピング委員会

実際に検査対象となるトップ選手の属する JPBA と JPBF、そして NBA 本部で構成した委員会で活動しています。来年度は 3 大会で 6 検体の検査を予定しています。それにとまなう TOTO の助成は申請済みです。

CS 委員会

新システムがスタートしました。が、登録数が伸び悩んでいます。この数字を延ばさないと競技的にも収入的にも将来はありません。29 年 1 月から 12 月までの登録者は 7000 名を超えました。年間で 2 回登録した人が結構いたからです。コアな部分は安定したいのでいかに新規を取り込むか、いかに更新していただくかが最大の問題です。

助成金審査委員会・選手選考委員会

必要に応じ開催します。

協力金委員会

ほぼ正常に回転しています。システム自体は問題ありません。

ルールブック委員会

ルールブック完成後ほぼ解散状態でしたが、必要に応じて HP に載せてゆきます。製本の予定はありません。

普及指導委員会

普及指導委員会を設置しました。高校を中心に、学校・児童館・高齢者施設にビリヤードを紹介する活動をします。

委員会も全面的に見直しを図る時期にきています。